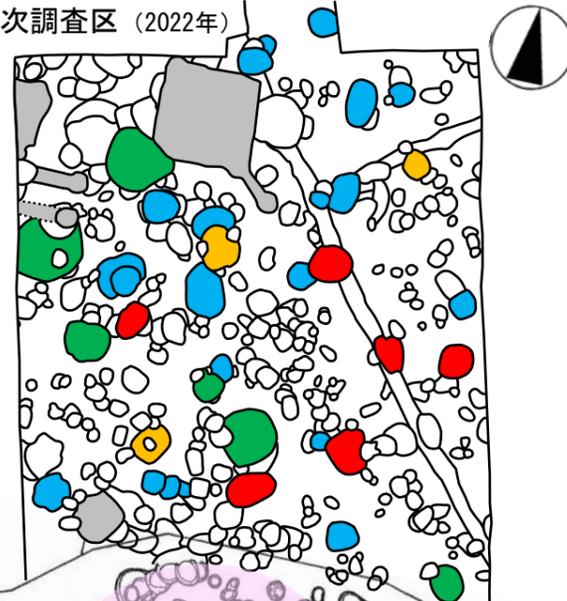


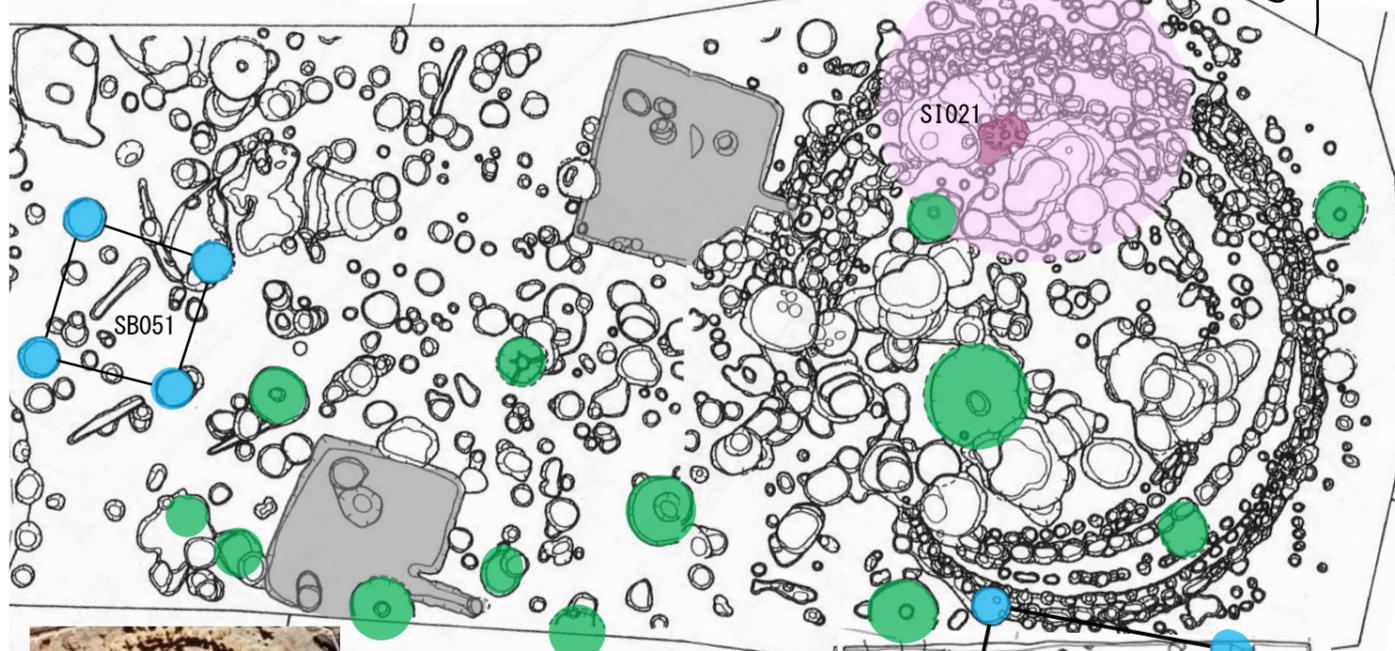
八天遺跡第9次調査の概要

第9次調査区 (2022年)



- 炉を持つ竪穴住居跡 (中期末葉～後期初頭)
- 掘立柱建物跡 (SB7001・051=後期前葉/SB7002=後期中葉)
- 柱 穴 (中期末葉～後期中葉?)
- 貯蔵穴 (中期末葉～後期中葉)
- 配石土坑 (墓穴?、中期末葉～後期前葉?)
- 浅い土坑 (墓穴?、中期末葉～後期前葉)
- 竪穴住居跡等 (平安時代)

第3・4次調査区 (1975-76年)



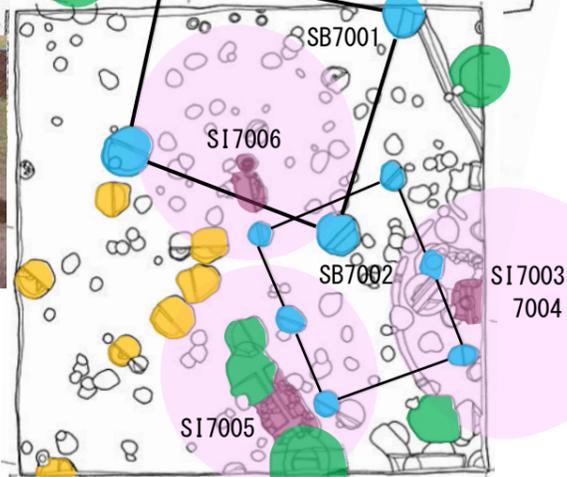
大形円形建物跡 * 後期中葉～後葉



掘立柱建物跡 (SB7001) * 後期前葉



竪穴住居跡 (S17003・7004) * 中期末葉～後期初頭



第7次調査区 (2020年)



③配石土坑 (B1類)



③貯蔵穴 (上層に焼土を遺棄)



②柱穴 (柱痕を有するもの)

○第9次調査の成果

大形円形建物跡の北側で、縄文時代の土坑約300基を検出しました。このうち40基程度を精査した結果、墓穴・貯蔵穴・柱穴を確認しました。

円形や小判形の配石土坑 (6基) や、浅い土坑 (3基) は墓穴と考えられます。大きさから子どもの墓と推測されますが、このうち7基は環状に分布します。

開口部から底面に向けて壁が広がり、フラスコ状を呈する土坑は、貯蔵穴と考えられます (6基)。焼土や粘土が遺棄されたもの、石皿を出土したものなどがあります。

最も多いのは柱穴 (22基) です。直径に比して深く、柱痕を有するものもあり、掘立柱建物跡の柱穴と考えられます。大形で深さが1m近いものも多数あり、かなり高い柱が立っていたものと推測されます。また精査していない多くの土坑のうち、大多数は柱穴と考えられます。

出土した土器はあまり多くありませんが、中期末葉～後期初頭 (約4500～4200年前) のものを主体とし、後期前葉 (約4200～4000年前) のものを散見します。後期中葉 (約4000～3600年前) まで下るものはほとんどありません。これらの年代は遺構の上限期 (最も古く考えた場合の時期) を示すものと考えられます。

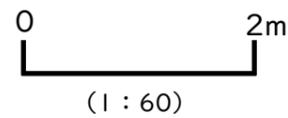
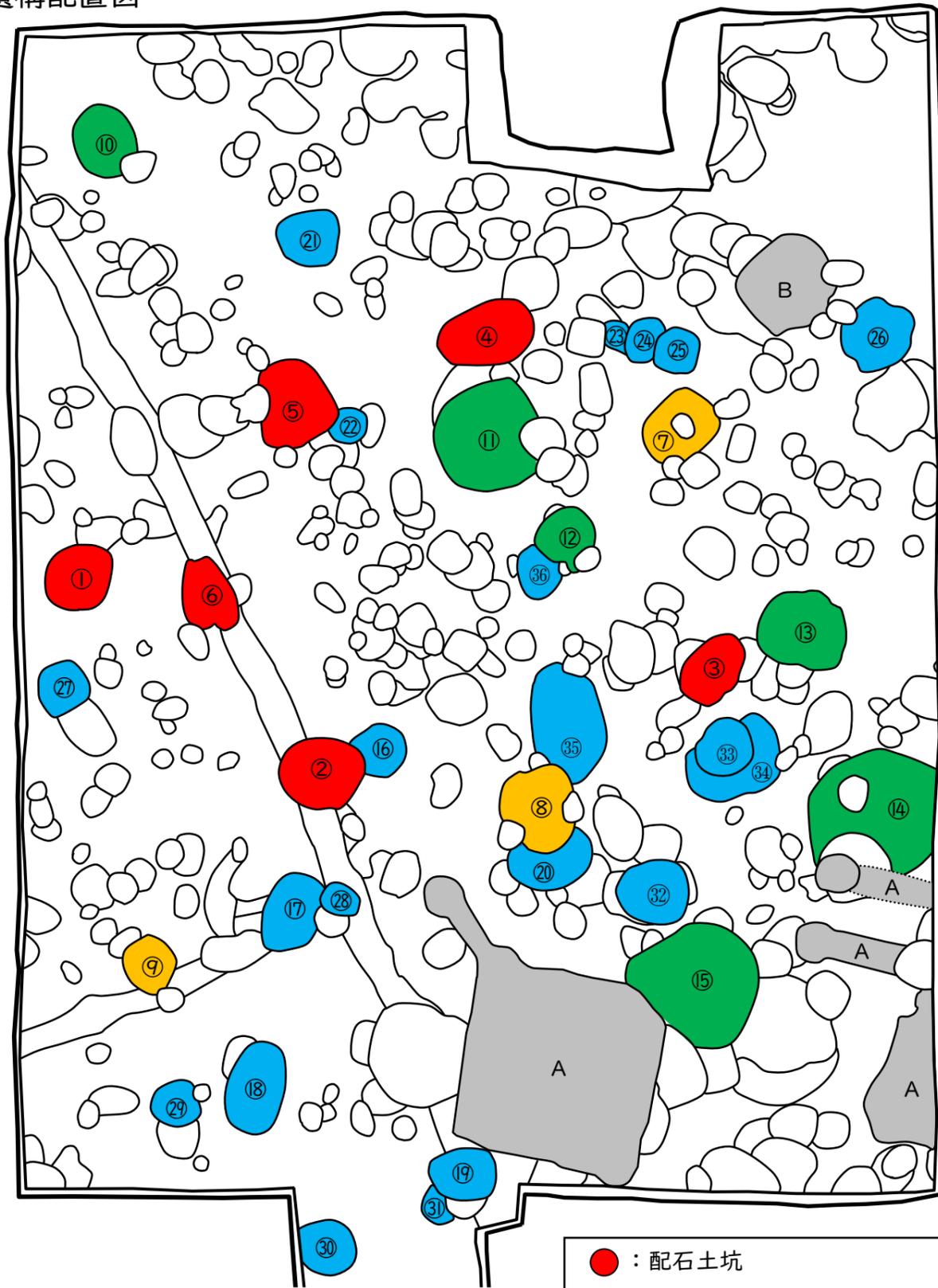
○集落構造との関係性

八天遺跡に営まれた最初の本格的な集落は、縄文時代中期末葉～後期初頭 (約4500～4200年前) にかけてのものです。複式炉を備えた竪穴住居跡と貯蔵穴が数多く分布しています。後期前葉 (約4200～4000年前) には大形柱穴による掘立柱建物跡が出現し、後期中葉～後葉 (約4000～3200年前) にかけて大形円形建物跡が営まれました。出土遺物の時期をそのまま遺構の時期とするならば、今回確認した土坑の多くは大形円形建物跡出現以前のものと推測されます。

令和4年10月22日 (土)

北上市教育委員会教育部文化財課

遺構配置図



※A：竪穴住居跡（9世紀後半）
B：土師器焼成遺構

- ：配石土坑
- ：浅い土坑（配石なし）
- ：柱穴
- ：貯蔵穴（フラスコ状のもの）

配石土坑について



①検出面に配石（A類）



②底面付近に配石（B1類）



③底面付近に配石（B1類）



④底面付近に配石（B1類）



⑤底面付近に配石（B1類）



⑥底面付近に配石（B2類）

配石土坑の特徴は？

今回見つかった配石土坑は次のように分類することができます。

A類：土坑を埋め戻して、その上に配石するもの

B1類：底面付近に複数の石を配するもの

B2類：底面付近に大きな石をひとつ配するもの

土坑の形状は円形や小判形で浅く、埋土は人為的に埋め戻されています。柱痕跡は認められず、柱穴とは考えられません。

配石の手順は、まず穴を掘り、少し埋め戻して底面を整え、その上に石を敷き詰めるように並べています。配石は底面全体に及ぶわけではなく、中央に集中していたり、片側に寄っていたりします。詳しく観察すると、縄文人が石器として使っていた石や、被熱した石なども並べていることが分かりました。

配石はありませんが形状や大きさが類似する土坑（浅い土坑）も含めると、これらの土坑は直径約6mの環状に並んで分布しているように見えます。縄文人は意図的にこのような配置にしたのでしょうか？

何のために作られたのだろうか？

これまでに八天遺跡では9回調査が行われていますが、底面付近に配石する土坑が確認されたのは今回が初めてです。

石は実際に掘られた穴の底ではなく、約5～20cmほど埋め戻したその上に丁寧に並べられていました。

「配石土坑」は祭祀儀礼に関係し、墓穴とも考えられています。今回の調査では残念ながら骨片などは出土しませんでした。形状と大きさから子ども（乳幼児）の墓と考えられます。配石は底面付近になされることから、その上に埋葬したと考えるのが自然ですが、配石の下にも埋め戻しが認められることから、埋葬後に配石した可能性も捨てきれません。

今後、科学的な分析も含めて、検討を継続していく予定です。

